

アイデア発想におけるドキュメント共有の効果

坪井 佳奈

現在、商品開発や問題解決といった場面で知的生産活動が行われており、これまで多くのアイデア発想法が考えられてきた。アイデア発想法の一つにブレインストーミング (brainstorming, 以下 BS と表記する) がある。この BS とは、「批判厳禁」「自由奔放」「質より量」「アイデアを結合させる」の4つのルールを元にアイデアを出す発散的な発想法である。この BS の問題点として、途中でアイデアが出なくなることが指摘されている。この問題に対し、写真やデータベースを使用し、BS 時に情報をインプットするという方法を取った先行研究が行われ、アイデア数や発言数が増加したことが明らかになっている。このことから、情報を与えることは BS に効果があることが伺える。しかし、先行研究では、BS の促進の評価に片寄りがあり、そもそも情報を含むドキュメントの提示が本当に BS を活性化しているのかが明らかになっていない。そこで、本研究では、ドキュメントがある場合とない場合を比較して、ドキュメントが BS を活性化するかを明らかにすることを目的とする。

ただ、ドキュメントといっても様々な形態が考えられるため、情報の表現によってアイデアの出しやすさが変わると考え、写真とテキストを用意した。加えて、最近では PC やスマートフォンのような端末が普及しているため、従来の紙とデバイスを用意した。この写真とテキストの2つと紙とデバイスの2つを組み合わせ、紙×写真、紙×テキスト、デバイス×写真、デバイス×テキストの4グループに分けて、ドキュメントなしとの比較実験を行った。実験の流れは、通常 BS が個人でアイデアを出し合ったあとの話し合う段階で用いられ、この段階でアイデアが出なくなる場合が多いことから、この手順に沿って、個人のアイデア出し、アイデアの共有、アイデアの整理で、情報資源を引き出したあと、ドキュメントを提示し、BS をするという手順で行った。また、BS の時間による変化をみるため、3分と7分の2つの実験を行った。

2つの実験より、ドキュメントが BS を活性化することが示唆された。これは、アンケートの記述にドキュメントを使用したことで「知らなかった情報を知った」「対象やアイデアを比較できた」ことがアイデアの出しやすさに繋がったという回答からドキュメントが BS に有効だったと考えられる。さらに、5段階評価の質問でドキュメントが役に立ったという回答が多かったことから推察される。しかし、アイデア数においては、ドキュメントありの場合とドキュメントなしの場合であまり差が見られなかった。この原因としては、BS の時間が3分と7分と短時間であったことが考えられる。短時間の BS より長時間の BS のほうが、アイデアが出なくなる頻度も高くなると考えられる。そのため、ドキュメントを使用した BS でアイデア数に差がでる可能性があると考えられる。

(指導教員 宇陀則彦)